

夢×喜び×やりがい  
医学および看護学を軸に、  
地域社会さらには広く人類の福祉に寄与する

# 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

所在地：  
〒634-8521  
奈良県橿原市四条町840  
0744-22-3051(内線 2224)  
基礎医学棟4F



奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

### 講座メンバー

教授	今村 知明	非常勤講師	康永 秀生 (東京大学大学院 医学系研究科 公共健康医学専攻 臨床疫学経済学分野 教授)	町田 宗仁 (厚生労働省)
准教授	赤羽 学	小池 創一 (自治医科大学 地域医療学センター (地域医療政策部門) 教授)	小川 俊夫 (国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 教授)	
講師	野田 龍也 (JIR東日本健康推進センター 労働衛生科 医長)	神奈川芳行 (近畿大学医学部 公衆衛生学教室 准教授)	清水多嘉子 (がん研有明病院 看護部 看護部長)	御輿久美子 (NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク)
学内講師	岡本 左和子			
教務職員	野口 久美子	教室職員	吉村満美子 片岡 香苗 三宅 好子 松村 美弥 豊國 佳子 吉田 有希	

1 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

### 講座メンバー

臨床教授

山田 全啓	(奈良県中和保健所長、奈良県保健所長会会長、近畿保健所長会副会長、全国保健所長会監事)
白阪 琢磨	(大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端医療研究部長)
上野 満久	(奈良市保健所長)
根津 智子	(郡山保健所長)
笠松 美恵	(厚生労働省 大阪検疫所長)
片山 友子	(厚生労働省 関西空港検疫所長)
上平 朝子	(大阪医療センター 感染症内科科長)

臨床准教授

渡辺 顕一郎	(奈良県医療政策部部长)
--------	--------------

2 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

### 講座メンバー

大学院博士課程 平成23年度入学 伊藤 雪絵	大学院修士課程 平成26年度入学 康原 夏子	博士研究員 杉浦 弘明 (すぎうら医院)
平成24年度入学 前屋敷明江	平成27年度入学 中西 康裕	佐野 友美 (関西空港検疫所)
平成25年度入学 和田千津子	西本 莉紗恵	田村 光平 (西多摩保健所)
吉本 和樹	吉井 克昌	松本 伸哉 (日本テラデータ株式会社)
平成26年度入学 今井 信也		森川 英子 (人間環境大学)
加藤 礼識		専修生 平野 展代 ((社)日本食品安全支援機構)
平成27年度入学 岸本 美和	業室研究生他 西浦 聡子	河本 慶子 (近畿厚生局)
	水野 静枝	
	仁木 稔	リサーチ・アシスタントなど 森本 拓馬 (医学科2年) 三好 真結 (看護学科3年)
	福山 麻里	山本 知世 (看護学科4年) 目戸由華里 (看護学科3年)
研究医コース 吉原 真吾 (研修2年目)		灰垣 奈々 (看護学科4年) 古川加奈子 (看護学科3年)
西岡 祐一 (研修1年目)		三宅 祐希 (大阪大4年)

3 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

### 担当分野

- 公衆衛生
- 医療政策
- 医療経営

特に

- 健康政策
- 健康危機管理、食品保健、リスクコミュニケーション
- 医療政策
- 病院経営、医療経済、医師・看護師需給
- 再生医療

等

4 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

### 担当授業

医学科	3年生	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	6授業時間
	4年生	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	30授業時間
	4年生	公衆衛生学実習	1週間
看護学科	3年生	公衆衛生概論	1単位
	3年生	保健統計学	3授業時間

5 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 平成27年度 衛生学・公衆衛生学Ⅱ講義

★開講日数 (H27) 対象：4年生 \*\*\*名 平成27年度 衛生学・公衆衛生学Ⅱ講義予定

日数	1日目 10/10-10/10	2日目 10/11-11/10	3日目 11/20-12/20	4日目 13/10-14/10	5日目 14/20-15/20	6日目 16/20-16/20
5月29日 (金)	公衆衛生概論 今村	公衆衛生概論 今村	公衆衛生概論 今村	公衆衛生概論 今村	公衆衛生概論 今村	公衆衛生概論 今村
6月11日 (木)				保健医療概論 野田	保健医療概論 野田	保健医療概論 野田
6月16日 (水)				小児保健 (母子保健・学校保健) 近畿大学 平田 謙隆先生	環境保健 赤羽	環境保健 赤羽
6月22日 (月)				保健・高齢・福祉の資源 厚生労働省 野田 宗仁先生	高齢者保健 赤羽	福祉政策と医療・在宅医療 野田
6月29日 (月)				国際疾病分類と様々な分類 国際医療福祉大学 小川 俊夫先生	医療経営 今村	シミュレーション演習 今村
7月3日 (金)				産業保健 奈良県健康推進センター 津島 典夫先生	産業保健 JIR東日本健康推進センター 神奈川芳行先生	日本の医療分種の現状と課題 高橋 幸先生
7月7日 (火)	食品管理、国民栄養 岡本	奈良県の衛生行政 郡山保健所 根津 智子先生	実習 オリエンテーション			
7月10日 (金)				医療・衛生関連法規・診療録 国際医療福祉大学 白土 幸一先生		
7月17日 (金)				生活習慣病リスク 千原健康推進部 高岡 忠帆先生	国の保健、指導委員会、医師と患者関係・末期患者への対応 医療政策、医薬品もを含む 岡本	
7月23日 (木)						CBT対策講義 (講義従事者の義務のおそれ) 野田

6 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 平成27年度 看護学科 講義

平成27年度 公衆衛生概論・保健統計学 (看護学科) 予定

★開講日数 (H27) 対象：3年生\*\*\*名

公衆衛生概論 前期の前半			保健統計学 前期の前半			保健統計学 前期の後半		
公開	日数	曜日	公開	日数	曜日	公開	日数	曜日
公開1	4月16日	(水)	統計1	4月13日	(月)	統計9	6月17日	(水)
公開2	4月22日	(水)	統計2	4月20日	(月)	統計10	6月22日	(月)
公開3	5月13日	(水)	統計3	4月27日	(月)	統計11	6月24日	(水)
公開4	5月20日	(水)	統計4	5月11日	(月)	統計12	6月28日	(月)
公開5	5月27日	(水)	統計5	5月18日	(月)	統計13	7月1日	(木)
公開6	6月3日	(水)	統計6	5月25日	(月)	統計14	7月6日	(月)
公開7	6月10日	(水)	統計7	6月1日	(月)	統計15	7月13日	(月)
公開8	6月16日	(水)	統計8	6月8日	(月)			

7 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 健康政策医学 研究内容

### 病床機能分化・連携に関する政策

#### 病床機能班

**参加メンバー**

- 今村知明 ●野田龍也
- 松田晋哉(産業医科大学 教授)
- 藤森研司(東北大学大学院 医学系研究科 教授)
- 伏見清秀(東京医科大学 教授)
- 石川ベンジャミン(一立がん研究センター 室長)
- 長谷川 友紀(東邦大学 医学部 教授)
- 地田俊也(国際医療福祉大学 教授)
- 瀬戸僚馬(東京医療保健大学 講師)
- 小林美亜(千葉大学医学部附属病院 特任准教授)
- 副島秀久(済生会熊本病院 院長)
- 町田二郎(済生会熊本病院 副院長)
- 渡辺頭一郎(奈良県医療政策部長)
- 和家佐日登美(奈良県中和保健所 課長)
- 加藤源太(京都大学)
- 笠井祥子(東京医科大学)

**採択研究課題**

平成27～29年度 **厚生労働科学研究費補助金** (地域医療基盤開発推進研究事業)

**病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究 (H27-医療一般-002)**

◆研究代表者: 今村知明  
◆平成27年4月～平成29年3月 3年計画 本年度1年目

**研究内容**

2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、医療・介護サービスの需要が著しく増大する一方で、我が国の医療提供体制は、他の先進国に比べ長い平均在院日数等、更なる効率化が必要である。そのため、**病床の機能・分化等の施策に関する分析・整理**を実施している。

各自治体・各医療機関の地域医療ビジョンを実現するための政策立案のために必要となる情報の提供を目指し、その得られた成果は、平成28年度以降に実施が想定される、第7次医療計画に反映されることを期待している。そのことにより、**オールジャパンの体制**で病床機能分化・連携に関する政策を検討することが可能となる。

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 健康政策医学 研究内容

### 奈良県の医療提供体制機能評価と地域医療構想実施施策の検討

#### 奈良県地域医療ビジョン班

**参加メンバー**

- 今村知明 ●野田龍也
- 西本莉紗
- 吉井克昌
- 渡辺頭一郎(奈良県医療政策部長)
- 奈良県医療政策部、地域医療連携課 他、奈良県所属職員多数

**研究内容**

奈良県が**地域医療構想**を策定するにあたっては、病床機能に関する様々なデータを一次的に集約して、**県内の現在の医療提供体制の機能を把握**した上で、2025年に向けた医療提供体制の実現に向けた施策を検討していく必要がある。

当講座では**奈良県医療政策部、地域医療連携課と連携**し下記の研究を行っている。また、本研究は奈良県より「医療提供体制機能評価及び地域医療構想実施施策検討に関する研究業務委託」を受けている。

①医療提供体制機能評価  
地域医療構想策定にあたり、当面の進め方としては、高度急性期、急性期、回復期の3機能を一括りとして考え  
・がん、脳卒中(脳血管障害)、急性心筋梗塞(虚血性心疾患)の3疾病  
・救急(含・外傷、急性腹痛)、周産期、小児の3事業  
について、医療提供体制の確認を行うことから着手することとするため、**様々なツールに分かれて医療情報を集約し、一次的なデータ管理を行うデータ整理業務及び各医療機関における3疾病3事業の医療機能と機能評価を行う。**

②地域医療構想実施施策検討業務  
2025年の医療提供体制の構築に向けた必要な施策の検討を行う。

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 健康政策医学 研究内容

### 行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策

#### 食品防御班

**参加メンバー**

- 今村知明 ●赤羽学 ●杉浦弘明 前屋敷明江
- 神奈川芳行(JR東日本)
- 高谷 幸(社団法人日本食品衛生協会専務理事)
- 岡部信彦(川崎市健康安全研究所 所長)
- 鬼武一夫(日本生活協同組合連合会)
- 山本茂貴(東海大学海洋学部 教授)
- 中村重信(東京都健康福祉局食品監視課 課長)
- 崎達明(関東学院大学 栄養学部)

**採択研究課題**

平成27～29年度 **厚生労働科学研究費補助金** (食品の安全確保推進研究事業)

**行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究 (H27-食品一般-012)**

◆研究代表者: 今村知明  
◆平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度1年目

**研究内容**

意図的な食品汚染への具体的な対策を検討するため、下記の4点について研究を実施。

- ①食品への毒物混入事件発生時における**保健所や行政機関での迅速な対応**
- ②**海外での動向把握**
- ③**食品防御体制の充実による故意混入の未然防止**
- ④**食品防御や食中毒の早期察知による被害拡大防止**

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 健康政策医学 研究内容

### 行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策

①食品への毒物混入事件発生時の迅速な対応  
●保健所や地方衛生研究所での迅速な事件対応が不可欠

②海外における食品防御対策の動向把握  
特に、米国の動向は注視が必要  
●食品安全強化法(FSMA)の成立(2011年1月)  
●2013年12月、FSMAによって義務付けられる**意図的な異物混入に対する食品企業への食品防御対策**を念頭に  
●FSMAでは、意図的な異物混入について、最も脆弱性が高い工程を特定し、全ての食品企業へ食品防御対策を義務化しようとしている。  
●ISOをはじめ、世界中で食品防御対策が動いている

③食品防御体制の充実による故意混入の未然防止  
●食品工場・物流施設への突撃調査を実施

④食品防御や食中毒の早期察知による被害拡大防止  
●食品監視調査(PAM)で過去に取得したデータを活用し、分析精度の向上を行う。

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## マルハニチロ株式会社

### 「アクリフーズ」農薬混入事件に関する第三者検証委員会

平成26年1月31日「アクリフーズ」農薬混入事件に関する**第三者検証委員会**が設置され、品質保証体制と危機管理体制の問題点について客観的な視点からの検証と評価を行ってきました。

平成26年5月29日、本委員会の最終報告(提言)を取りまとめました。

**概要**

平成25年末に発生した**冷凍食品への農薬混入事案**を受け、マルハニチログループは様々な専門家で構成される「**農薬混入事件に関する第三者検証委員会**」を設置しました。本委員会は発足以来、計11回の会合を重ね、関係者延べ80人の詳細なヒアリングを実施し、群馬工場も視察し検証を行いました。

**第三者検証委員会のメンバー**

委員長 今村知明	奈良県立医科大学 健康政策医学講座教授
副委員長 笠野空	奈良県立医科大学 健康政策医学講座准教授
委員 鬼武一夫	日本生活協同組合連合会 品質保証本部 安全政策推進部長
委員 久保利明	日比谷パー法律事務所代表弁護士 大宮法科大学大学院教授
委員 松永和紀	一般社団法人「Food Communication Compass」代表 科学ライター
委員 山本茂貴	東海大学 海洋学部水産学教授

1

## 農林水産省

### 「食品への意図的な毒物等の混入の未然防止等に関する検討会」

農林水産省は、平成26年4月から、「食品への意図的な毒物等の混入の未然防止等に関する検討会」を開催してきました。

平成26年6月27日、本検討会の報告書を取りまとめました。

**概要**

平成25年末に発生した**冷凍食品への農薬混入事案**を受け、農林水産省は、政府全体の取組に沿って、食品事業者等における**意図的な毒物等の混入を未然に防止する取組を推進**するため、外部有識者からなる**本検討会(消費・安全局長主催)を4月に立ち上げ、3回にわたり検討**を行いました。

**委員名簿**

座長 今村知明	奈良県立医科大学 健康政策医学講座教授
大隅 和昭	一般社団法人 日本惣菜協会 教育事業部長
荒武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部長
折井 雅子	サントリ・ビジネスエキスパート株式会社 常務取締役 お客様リレーション本部長
神奈川 芳行	東日本旅客鉄道株式会社JR東日本健康推進センター 労働衛生部長
川崎 一平	一般社団法人 食品産業センター 技術環境部長
関川 和孝	一般社団法人 日本フードサービス協会 専務理事
高谷 幸	公益社団法人 日本食品衛生協会 専務理事
中島 正	日本チェーンストア協会 総務委員会取組委員会委員
中村 啓一	公益社団法人 食の安全・安心財団 理事・事務局長
長谷川 俊明	長谷川俊明法律事務所 代表弁護士
松永和紀	科学ライター

3

## 農林水産省「食品への意図的な毒物等の混入の未然防止等に関する検討会」

### 報告書 概要

1 今般の食品への意図的なマラチオンの混入事案から得られる教訓

- (1)食品事業者は、**危機管理対応**において、以下の点に留意することが重要。
  - 昔慣れや商品回収等に関する手順を定め文書化しておく。
  - 食品安全や関係法令に関する知識の習得に努める。
  - 食品安全や関係法令に関する知識や経験、判断力を考慮した人材配置や、経営トップが早期から関与する体制を構築する。
  - 危機管理マニュアルに、回収範囲の決定や回収の方法、公表、消費者への対応方法など具体的に記載する。
- (2)**食品事業者のガバナンス**に関し、経営や品質保証の体制について、危機管理の責任体制が明確かどうか、今般のような事案を想定して再点検する。
- (3)**食品防御の概念を理解し、取組の必要性を認識**するとともに、**訓練など危機管理体制を整備**しておく(食品防御の詳細は2のとおり)。

2 食品事業者が食品防御(※)に取り組むに当たり参考となる事項

※食品防御: 公衆衛生への危害及び経済的な混乱を引き起こす意図的な異物混入から食品を守る努力

- (1)食品への意図的な混入は起こり得るものと想定し、従来の食品衛生の取組に加え、**食品防御に対する意識を向上させる**。
- (2)消費者に安全で高品質な食品を届けたい食品事業者の使命を従業員に浸透させるとともに、従業員との信頼関係や良好な人間関係の構築、また、事件の予兆と考えられる事象への対応等を通して、**意図的な混入をしないと想わせたい職場の風土をつくる**。
- (3)各事業所において随条件を遊業しながら、自身が実行し得る効果的な対策ができることを優先して計画的な対策を講じ、悪意を持った者による**意図的な混入が実行し難い環境をつくる**。
- (4)事業者が自主的に取り組むに当たり、厚生労働科学研究費助成・公表のガイドライン等が参考となる。
- (5)**食品安全や品質向上の取組が食品防御の基盤**となるほか、**万が一に備えた危機管理の訓練も重要**。

3 検討内容の食品事業者への普及等

関係団体や地方自治体の協力を得て、研修会や参考資料の提供等を通じて事業者への普及を図る。

14

## 健康政策医学 研究内容

### TBSラジオ 生出演

#### 冷凍食品の農薬混入問題から考える 食の安全を守る「フードディフェンス」とは?

8日(水)のテーマは「**冷凍食品への農薬混入をきっかけに改めて考える。私たちの「食」の守り方。ゲストは消費者問題研究所代表の堀田達哉さん、奈良県立医科大学教授の今村知明さん**」(番組Tweetsより)

2014年1月8日(水)  
22時～24時55分  
TBSラジオ 夜上半Session22  
(22時40分～23時40分) 今村知明が生出演

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## 新聞、メディアへの取材・執筆 多数協力

### 『冷凍食品農薬混入事件』を受けて

2014年1月27日(月) 毎日新聞「論点」

2014年2月7日 毎日新聞「論点」

2014年2月8日 毎日新聞「論点」

2014年2月18日 読売新聞「論点」

2014年1月27日(月) 関西TVニュースANCHOR 取材風景

2014年1月27日(月) 関西TVニュースANCHOR 取材風景

2014年2月7日(月) 毎日新聞「論点」

2014年2月8日(月) 毎日新聞「論点」

2014年2月18日(月) 読売新聞「論点」

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## 中国期限切れ鶏肉事件 専門家として意見を求められる

### 原材料の常時監視 困難

2014年7月23日(水) 関西TVニュースANCHOR 取材風景

2014年7月24日(木) 読売新聞 原材料の常時監視困難 朝日新聞 中国依存の食、シレンマ 期限切れ 鶏肉、5人拘束 安さと不正防止、高文雅雄

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## 日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究

### 生協調査

**参加メンバー**

- 今村知明 ● 赤羽学
- 杉浦弘明
- 佐野友美 (関西空港検疫所)
- 前屋敷明江 (奈良医科大学看護学公衆衛生看護学 助教)
- 岡部信彦 (川崎市健康安全研究所 所長)
- 鬼武一夫 (日本生活協同組合連合会)

**採択研究課題**

平成26年度 **厚生労働科学研究費補助金**(食品の安全確保推進研究事業)

**食品防衛の具体的な対策の確立と実行検証に関する研究 (H24-食品一般-001)**

- 研究代表者: 今村知明
- 平成24年4月～平成27年3月 3年計画 本年度3年目

平成26～28年度 **文部科学研究費補助金(若手研究(B))**

**食品と花粉飛散量の組み合わせによるアレルギー症状の増強因子に関する研究(26750048)**

- 研究代表者: 前屋敷 明江
- 平成26年4月～平成29年3月 3年計画

**研究内容**

インターネットを用いて毎日住民のアンケート健康調査(WDQH)を実施し、個人の健康状態を収集。(対象地域生協会員のうちネット注文をしている方とその家族が調査対象)

- アレルギー症状の日々の変化と黄砂量との検討
  - 日々変化するアレルギー症状の推移をとらえ、各症状と黄砂との関連性を調査
- 花粉症流行開始日の同定
  - 日々変化するアレルギー症状の推移をとらえ、花粉飛散状況との関係を調査
- 東日本大震災に伴う不眠症状発症リスクの検討(前向き調査)
  - 東京と大阪の東日本大震災による不眠発症の検討を実施

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## 日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究

**最終アンケート**

- CS オール電化
- CS 浄水器
- CS 加湿器
- CS 予防接種の有無
- CS 診断
- CS インフルエンザ
- CS 感染性胃腸炎
- CS 生活習慣
- CS 手洗い
- CS うがい

**日々の症状**

**商品購入データ**

- CS 商品購入日
- CS 購入商品JANコード
- CS 食品名
- CS 賞味期限 など

**環境因子等**

- CS 気象情報
- CS 平均気温
- CS 最低気温
- CS 最高気温
- CS 湿度
- CS 雲量
- CS 風向
- CS 定点インフル
- CS 定点感染性胃腸炎
- CS 花粉量
- CS 黄砂飛散量
- CS 大気汚染(SOX,NOX) など

**PM食品の健康被害データ分析方法**

PRR手法を用いた計算とシミュレーションを試行

**主な論文**

- Development of a web-based survey for monitoring daily health and its application in an epidemiological survey  
Hiroaki Sugura, Yasushi Ohkusa, Manabu Akahane, Tomomi Sano, Nobuhiko Okabe, Tomoaki Imamura  
Journal of Medical Internet Research
- Construction of syndromic surveillance using a web-based daily questionnaire for health and its application at the G8 Hokkaido Toyko Summit meeting  
Sugura Hiroaki, Ohkusa Yasushi, Akahane Manabu, Sugahara Tamie, Okabe Nobuhiko, Imamura Tomoaki  
Epidemiology and Infection

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## 日々の健康調査と環境因子との関連性の掛け合わせ研究

**図1 健康調査の概要**

調査対象者を募集し、登録する  
調査表を毎日インターネットで送付  
インターネット経由で毎日集計  
有症状率を計算(地理情報として電気)

**図2 黄砂量とアレルギー症状の関連性**

**図3 アレルギー症状の増強因子の検討**

**図4 黄砂量とアレルギー症状の関連性**

**図5 黄砂との関連性**

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査

### カネミ班

**参加メンバー**

- 今村知明 ● 赤羽学
- 松本伸哉 (テラデータ、当講座博士研究員)
- 神奈川芳行 (JR東日本)
- 古江増隆 (九州大学大学院医学研究院 皮膚科学分野 研究代表者)

**採択研究課題**

平成27～29年度 **厚生労働科学研究費補助金**(食品の安全確保推進研究事業)カネミ油症に関する研究

**食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究 (H27-食品-指定-017)**

- 研究代表者: 古江増隆 (九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野)
- 研究分担者: 赤羽学
- 平成27年4月～平成29年3月 3年計画 1年目

**研究内容**

**油症患者と非油症患者における健康実態の比較検討と血中ダイオキシン類濃度の半減期に関する研究**

- 過年度までに非油症患者に対して行ってきた健康実態調査結果を、油症患者の健康実態と詳細に比較するために多変量解析等を用いた検討を行い、油症患者の健康実態を明らかにする
- 血中ダイオキシン濃度の半減期の推測が可能であるかの検討
  - 血中ダイオキシン類の半減期を詳細に推測するためには、各患者の体重や体脂肪率等の変化を考慮する必要があることが判明
  - 成長期の子供のように年々体重が増加する場合には、その変化は半減期と強く結びついて現れるので推測は比較的容易であるが、成人の体重の増減は各個人によって異なる
  - 体重以外にも血中脂質濃度など調査期間内の計測値が増減する項目がある

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査

**結果5：新たに油症との関連の検討が必要と思われた症状⑤**

80%  
60%  
40%  
20%  
0%

黒色群 ■ 対照群(補正)

リンパ節の腫れ  
椎間板ヘルニア  
カンガリオン  
骨痛  
手足麻痺  
痒疹がでやすい  
皮膚の痒み(かゆみ)  
乾燥肌(さめ肌)  
白班  
喘息  
薬物アレルギー  
関節リウマチ  
体ががつかう  
のどがつかう  
筋肉の痛み  
体がむくむ

※ 1.5倍以上高かった症状  
★ 3倍以上高かった症状

25

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

## カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査: 主な論文

- A technique for identifying three diagnostic findings using association analysis  
Tomoaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Masataka Furue and Hiroshi Oyama  
Medical and Biological Engineering and Computing
- Relationship between clinical features and blood levels of pentachlorodibenzofuran in patients with Yusho  
Tomoaki Imamura, Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Bunichi Tajima, Takeshi Uenotsuchi, Satoko Shibata, Masataka Furue  
Environmental Toxicology
- Association of clinical findings in Yusho patients with serum concentrations of polychlorinated biphenyls, polychlorinated quaterphenyls and 2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran more than 30 years after the poisoning event  
Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Soichi Koike, Bunichi Tajima, Noriko Fukuiwaka, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Masataka Furue and Tomoaki Imamura  
Environmental Health
- Variation in Half-life of Penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) Blood Level among Yusho Patients  
Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Takesumi Yoshimura, Chikage Mitomad, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Masataka Furue and Tomoaki Imamura  
Chemosphere
- Twenty-year changes of penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) level and symptoms in Yusho patients, using association analysis  
Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Manabu Akahane, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, Masataka Furue and Tomoaki Imamura  
BMC Research Notes
- Cutaneous symptoms such as acneform eruption and pigmentation are closely associated with blood levels of 2,3,4,7,8-penta-chlorodibenzofurans in Yusho patients, using data mining analysis  
Tomoaki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, Masataka Furue, Manabu Akahane, Soichi Koike  
BMC Research Notes
- ESTIMATION OF PENTA-CHLORODIBENZOFURAN (PeCDF) HALF LIFE IN YUSHO PATIENTS  
Manabu Akahane, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Chikage Mitomada, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Takesumi Yoshimura, Masataka Furue, Tomoaki Imamura  
Organohalogen Compounds

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ

### ウツタイングループ

**参加メンバー**

- 野田龍也 ●赤羽学 ●今村知明
- 小川俊夫(国際医療福祉大学大学院准教授)
- 田邊晴山(救急救命東京研究所 教授)

**研究内容**

都道府県におけるAED導入の関連費用を目的としたうえで、その費用対効果を推計することを主として実施する。さらに、地域の健康安全・危機管理対策の視点でAED導入の負担と効果について考察を実施し、危機管理の観点からAEDの適正台数についても提言を実施する。

- ◆抽出した都道府県におけるAED関連費用の推計
- ◆「ウツタイン統計データ」を用いた費用対効果分析手法の検討

院外心臓停止症例のアウトカムに対する男女差の影響  
V F / V T 症例を除外した場合

院外発生的心臓機能停止傷病者に対する自動体外式除細動器の事後の男女差について  
市民及び救急隊AEDの実施例の前後の男女差は、どちらも男性の方が女性に比べて高く、有意差が見られた(調査前)

性別	実施前 (%)	実施後 (%)
男性	40.0	35.0
女性	35.0	30.0

胸骨圧迫のみと従来法の予後の比較  
目撃からバイスタンダー-CPR開始までの年齢階層別・全症例

## 消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ: 主な論文

- The effects of sex on out-of-hospital cardiac arrest outcomes  
院外心臓機能停止患者の事後の男女差について  
**Manabu Akahane, Toshio Ogawa, Soichi Koike, Seizan Tanabe, Hiromasa Horiguchi, Tatsuhiro Mizoguchi, Hideo Yasunaga, and Tomoaki Imamura.**  
The American Journal of Medicine
- Outcomes of chest compression-only CPR versus conventional CPR: A nationwide, population-based, observational study of bystander-witnessed out-of-hospital cardiopulmonary arrest cases  
心臓のみと心臓+人工呼吸の事後について  
**Toshio Ogawa, Manabu Akahane, Soichi Koike, Seizan Tanabe, Tatsuhiro Mizoguchi and Tomoaki Imamura.**  
British Medical Journal
- Immediate defibrillation or defibrillation after cardiopulmonary resuscitation  
CPRと除細動のどちらが先か  
**Soichi Koike, Seizan Tanabe, Toshio Ogawa, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Shinya Matsumoto, Tomoaki Imamura.**  
Prehospital Emergency Care
- Effect of time and day of admission on 1-month survival and neurologically favourable 1-month survival in out-of-hospital cardiopulmonary arrest patients  
病院搬送の曜日・時間と予後について  
**Soichi Koike, Seizan Tanabe, Toshio Ogawa, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Shinya Matsumoto, Tomoaki Imamura.**  
Resuscitation
- Collapse-to-emergency medical service cardiopulmonary resuscitation interval and outcomes of out-of-hospital cardiopulmonary arrest: a nationwide observational study  
目撃からCPR開始までの時間について  
**Soichi Koike, Toshio Ogawa, Seizan Tanabe, Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Tomoaki Imamura.**  
Critical Care
- Collaborative effects of bystander-initiated cardiopulmonary resuscitation and prehospital advanced cardiac life support by physicians on survival of out-of-hospital cardiac arrest: a nationwide population-based observational study  
バイスタンダーによるCPRと医師による病院収容前の治療効果に関する研究  
**Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Seizan Tanabe, Manabu Akahane, Toshio Ogawa, Soichi Koike and Tomoaki Imamura.**  
Critical Care
- Population density, call-response interval, and survival of out-of-hospital cardiac arrest  
人口密度と蘇生率について  
**Hideo Yasunaga, Hiroaki Miyata, Hiromasa Horiguchi, Seizan Tanabe, Manabu Akahane, Toshio Ogawa, Soichi Koike and Tomoaki Imamura.**  
International Journal of Health Geographics

## 健康問題にかかるリスクコミュニケーション研究

### リスクミ班

**参加メンバー**

- 今村知明
- 岡本左和子
- 五十君 静信(国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部・研究代表者)

**研究内容**

「遺伝子組換え食品の安全性に関するリスクコミュニケーション」  
「医療」「健康被害事件」のリスクコミュニケーション手法の開発～確立へ

- ◆GM食品(GM動物、ハイブリッド、新開発品種等)に関する調査研究
- ◆最新のNBT(セルフクロニング、ナチュラルオカレンスを含む)に関する調査研究
- ◆最先端のGM・NBT技術の整理とコミュニケーション上の問題点の抽出
- ◆説明ロジックおよび説明ツールの開発、先進国や食品以外の分野における事例調査
- ◆リスクコミュニケーション手法の開発
- ◆GM作物・食品の社会的需要におけるクリティカルポイントの特定と、コミュニケーションツールの改善
- ◆NBTに関するコミュニケーションツールの開発

**採択研究課題**

平成27～29年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)

**バイオテクノロジーを用いて得られた食品のリスク管理及び国民受容に関する研究(H27-食品-一般-00)**

- ◆研究代表者: 五十君 静信 (国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部)
- ◆研究分担者: 今村知明
- ◆平成27年4月～平成29年3月 3年計画 1年目

平成26～28年度文部科学省研究費補助金(基礎研究(C))

**患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究(26460610)**

- ◆研究代表者: 岡本左和子 ◆研究分担者: 今村知明
- ◆平成26年4月～平成29年3月 3年計画

## 健康問題にかかるリスクコミュニケーション研究

**参加メンバー**

- 今村知明
- 岡本左和子
- 五十君 静信(国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部・研究代表者)

**研究内容**

「遺伝子組換え食品の安全性に関するリスクコミュニケーション」  
「医療」「健康被害事件」のリスクコミュニケーション手法の開発～確立へ

- ◆GM食品(GM動物、ハイブリッド、新開発品種等)に関する調査研究
- ◆最新のNBT(セルフクロニング、ナチュラルオカレンスを含む)に関する調査研究
- ◆最先端のGM・NBT技術の整理とコミュニケーション上の問題点の抽出
- ◆説明ロジックおよび説明ツールの開発、先進国や食品以外の分野における事例調査
- ◆リスクコミュニケーション手法の開発
- ◆GM作物・食品の社会的需要におけるクリティカルポイントの特定と、コミュニケーションツールの改善
- ◆NBTに関するコミュニケーションツールの開発

**採択研究課題**

平成27～29年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)

**バイオテクノロジーを用いて得られた食品のリスク管理及び国民受容に関する研究(H27-食品-一般-00)**

- ◆研究代表者: 五十君 静信 (国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部)
- ◆研究分担者: 今村知明
- ◆平成27年4月～平成29年3月 3年計画 1年目

平成26～28年度文部科学省研究費補助金(基礎研究(C))

**患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究(26460610)**

- ◆研究代表者: 岡本左和子 ◆研究分担者: 今村知明
- ◆平成26年4月～平成29年3月 3年計画

## 国際疾病分類「ICD11」の作成に向けての調査研究

### ICD班

**参加メンバー**

- 今村知明(研究代表者)
- 小川俊夫(国際医療福祉大学大学院准教授)
- 中野隆史(群馬大学大学院医学系研究科 教授)
- 今井 健(東京大学大学院医学系研究科 講師)
- 中谷純(東北大学大学院 教授)
- 興格真英(自治医科大学・企画経営部医療情報部 准教授)
- 田嶋尚子(自治医科大学 名誉教授)

**研究内容**

- 医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類をとりまとめることを目的
- WHOが着手しているICD-11検討の場での我が国としての基礎資料の作成
- ICD: 死亡統計のみならず、患者調査、医療保険制度(DPC等)、診療情報管理等、広く医療情報全般において活用→ICDの活用領域が拡大
- 医療情報の電子化  
→ICDは更に多くの場面で活用
- 情報を分析可能なデータベースとするために、国際疾病分類であるICDの活用も一層拡充→その重要性も益々アップ

**採択研究課題**

平成27年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))

**医療情報の活用のための疾病及び関連保健問題の国際統計分類のあり方に関する研究(H26-政策-一般-001)**

- ◆研究代表者: 今村知明 ◆研究分担者: 小川俊夫
- ◆平成26年4月～平成29年3月 3年計画 本年度2年目

## 標準的な院内清掃のあり方の研究

### 院内清掃班

**参加メンバー**

- 今村知明 ●野田龍也
- 鈴木紀之(筑波メディカルセンター 事務局長)
- 大久保憲(東京医療保健大学 教授)
- 大井田隆(日本大学医学部 教授)

**研究内容**

医療法第20条に規定される医療機関の清潔保持義務に即し、**医療機関の清掃業務に関する基準等を検討**することにより、**医療機関の環境整備の標準化を検討**している。

医療法第20条においては、病院等の医療機関について清潔を保持することが求められている。しかし、医療機関が清掃の業務を委託する際の受託者の基準(医療法施行規則)及び受託者の業務の実施方法等(通知)は定められているものの、「清潔の保持」の指標となる基準等は定められておらず、その取組は各医療機関に一任されている。わが国の医療環境の一層の向上を目指すため、**医療機関において最低限必要とされる清潔保持状態の基準を検討**する必要がある。そこで、清掃業務受託者や医療機関へのヒアリング等を通じ、医療機関の特色に応じて清掃実態等を把握し、清掃基準の必要性やその内容を検討している。

**採択研究課題**

平成27～29年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)

**標準的な院内清掃のあり方の研究(H27-医療-指定-011)**

- ◆研究代表者: 今村知明
- ◆平成27年4月～平成28年3月 1年計画

## 医薬品・医療材料の価格算定の補正率の定量化

### 定量化班

**参加メンバー**

- 今村知明 ●野田龍也
- 成川 衛(北里大学薬学部 准教授)
- 中村哲也(群馬大学医学部 准教授)
- 小林江梨子(千葉大学大学院薬学研究院 助教)
- 田倉智之(大阪大学大学院医学系研究科 教授)

**研究内容**

原価計算方式における営業利益率の補正について、これまでの**算定実績の整理分析**を行う。それとともに、理論上想定する最大の有用性の要件を構築した上で、その構成要件を定量化した。そして、それぞれの補正要件と対応する補正率を関連づけることにより、**補正率を定量的に算出できる方法論を構築**した。同様の手法により減算的評価にも検討を行い、営業利益率の-50%～+100%に対応する補正率を定量的に算出できる方法論を構築している。また、特定保険医療材料の基準材料価格についても、同様の手法を検討しつつ、**医薬品と医療材料の特性に鑑みながら、定量化の方法論を構築**している。

**採択研究課題**

平成26年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)

**薬価算定基準(原価計算方式)における平均的補正率の補正率の定量的算出法及び特定保険医療材料の保険償還価格算定の基準における定量的評価に係る研究(H27-特別-指定-014)**

- ◆研究代表者: 今村知明
- ◆平成26年7月～平成27年3月 1年計画

平成27年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)

**特定保険医療材料の保険償還価格算定の基準(原価計算方式)における営業利益率の調整率の定量的算出法に係る研究(H27-特別-指定-010)**

- ◆研究代表者: 田倉智之
- ◆研究分担者: 野田龍也
- ◆平成27年6月～平成28年3月 1年計画

## 病院の経営改善や政策医療に関する研究

### 病院経営改善や政策医療に関する研究

■ **病院経営からみたリハビリテーション部門拡充に関する一考察**

目的: リハビリテーション部門の体制強化に向けた収支の試算を行い、病院経営に及ぼす影響について考察を実施する

結果: リハビリテーション部門の増員による効果的な運営が、在院日数の短縮等、収益性の向上に貢献すると示唆された

■ **公立病院の財務改善に関する一考察: 地方交付税と会計基準の公立病院経営に与える影響**

目的: 公立病院に措置された地方交付税が適切に繰入れられ、公立病院独自の会計基準を導入した場合の財政について考察する

結果: モデル病院を用いて検討することにより、公立病院の財政は改善される可能性が示唆された

## ■ 大学経営再建

- 杏林大学:ここ5年の決算の改善は劇的

## ■ 県立病院、市民病院の経営支援

- 金沢市民病院
- 青森県立病院
- 佐世保市民病院
- 富山市民病院
- 国保中央病院

## ■ 国立病院への経営支援

- 国立国際医療センター 国府台病院
- 国立長寿医療センター 外部評価委員
- 厚生中央病院(全国土木建築国民健康保険組合)

## 法人特命企画官

- 中期計画の着実な推進や20年後のトップ10入りを目指すための取組みの構築など理事長の特命事項を担当する
- 平成25年年度 新設

### 病院運営

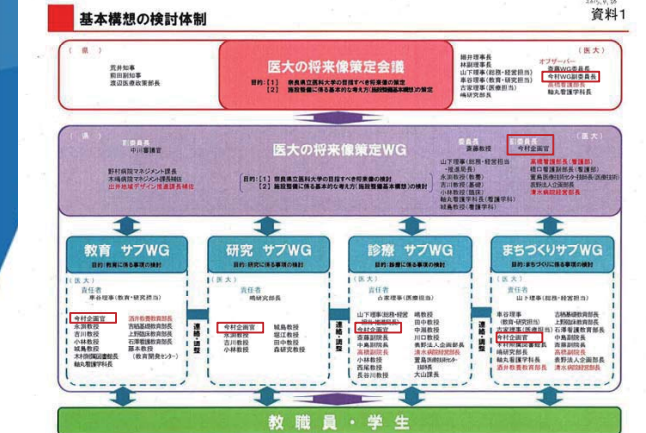
- 附属病院の経営にも深く関わっている
  - 例えば、2年に1度の診療報酬改定時期には、中医協発表資料を常時精査し診療報酬改定における主要改定項目を独自にまとめあげ、病院経営・運営会議や病院運営協議会において頻回にプレゼンを行っている
  - ↓
  - 奈良医大附属病院の運営に直接関わる非常に重要な示唆を行っている
- 診療報酬改定等の社会の変化が大学病院にどのような影響を与えるかの調査研究を集中的に行い積極的に公表し、合わせてこれらの分析結果を当大学附属病院の運営に当っては、適切な対策の企画立案を行っている
  - 結果、奈良医大附属病院の収益では、着任当初の平成19年度は229億円だったものが、平成23年度は290億円、平成26年度は334億円と増加した
  - これは奈良医大附属病院運営の方針決定に際し、継続して支援を行ってきたことも寄与
  - ↓
  - 奈良医大附属病院の経営に多大な貢献をしている

### 病院運営

- 附属病院運営に関する企画立案
  - 【例】「病床稼働率の低下とその後の対策について」「機能評価係数Ⅱについて」「病院の運営方針決定のために公立病院で必要になる考え方と会計」「手術中止症例から見えてきた手術室の現状」
- 病院関係者への情報提供
  - 【例】「一般病棟入院基本料の見直しについての影響」「DPC対象病院・準備病院の現況について」「平成25年度機能評価係数Ⅲについて」「看護師認定証について」
- 診療報酬改定に係る中医協資料の読み込み作業と病院運営協議会等でのプレゼン業務
  - 【例】「平成24年度の診療報酬改定における中医協の審議状況等について」「平成24年度診療報酬改定の概要と詳細について」
- 病院関係の学内委員会
  - 病院運営協議会 ● 病院経営・運営会議 ● 看護職員確保対策会議 対策本部
  - 新棟手術室検討委員会、中央手術棟建設委員会 ● 医療情報システム運営委員会
  - コーヒーション設置運営候補者選定審査委員会

### 大学企画・運営

- 大学での企画業務の大学移転・建替計画
  - 【例】「臨床研究棟の建て替え計画案」「移転に伴う道路拡張についての調査」
- 法人運営・財務に関する提案
  - 【例】「中期目標の期間の最後の事業年度における会計処理について」「年度末の現金資産化計画 その項目と決定時期について」「第2期中期計画期間の大学財務目標について」
- 大学関係者への情報提供
- 大学関係の学内委員会
  - 中長期計画推進委員会 ● 中期計画企画運営・調整部会
  - 中期計画推進委員会 施設整備部会 ● 大学移転検討委員会ワーキング会議



### 厚生労働省 老健局老人保健課 社会保障審議会専門委員

- 社会保障審議会介護給付費分科会介護報酬改定検証・研究委員会
- 内容：介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査の結果や、今後の調査の進め方・実施内容について検討する
- 介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査 (例)
  - 老人保健健康増進等事業
    - 「介護サービス事業所における医療職の在り方に関する調査検討委員会」平成24年9月～平成26年3月31日 (委員として参加)
  - 地域包括ケアシステムにおける有床診療所に関する調査研究事業
    - 「有床診療所における医療・介護の提供実態に関する調査」平成25年9月～平成26年3月31日 (委員長として参加)
  - 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査研究事業
    - 平成26年6月23日～平成27年3月31日 (委員長として参加)

### 「地域における保健師の保健活動に関する検討会」

～厚生労働省健康局 検討会委員(2012年10月～2013年3月)～

- 目的 H15以降の社会状況の変化及び制度の改正等を踏まえ、今後の地域における保健師の保健活動のあり方を検討
- 検討内容 ① 最近の地域における保健活動に関する情報の収集  
② 今後の保健師の保健活動のあり方に関する論点整理及び方向性の検討
- 実施場所 厚生労働省 会議室
- 「地域における保健師の保健活動に関する指針」(平成25年4月19日発令)  
保健師の保健活動の基本的な方向性
- ① 地域診断に基づくPDCAサイクルの実施
  - ② 個別課題から地域課題への視点及び活動の展開
  - ③ 予防的介入の重視
  - ④ 地区活動に立脚した活動の強化
  - ⑤ 地区担当制の推進
  - ⑥ 地域特性に応じた健康なまちづくりの推進
  - ⑦ 部署横断的な保健活動の連携及び協働
  - ⑧ 地域のケアシステムの構築
  - ⑨ 各種保健医療福祉計画の策定及び実施
  - ⑩ 人材育成
- 「地区担当制の推進」  
「統括的な役割を担う保健師の配置」

# 奈良県地域医療ビジョン策定戦略会議

- 基本命題 **地域医療における需要と供給を、質と量の両面からマッチングするしくみをどのように構築するか**
- 「地域医療構想(ビジョン)」は県が医療計画の一部として作成
  - 会議は、県が構想案を策定する第一段階として設定された
  - 県内外の有識者らと知事・副知事・医療政策部長が専門的な見地から意見を出す場

メンバー	氏名	役職	分野
委員長	荒井正吾	知事	行政
委員長代行	前田 努	副知事	行政
委員	秋山 正子	NPO法人 白十字在宅ボランティアの会 / 暮らしの保健室 室長ほか	在宅ケア
	<b>今村 知明</b>	奈良県立医科大学 健康政策医学教授	医療政策・医療経営
	上田 裕一	奈良県総合医療センター 総長	医療
	久野 謙也	筑波大学体育系教授	健康政策
	高橋 泰	国際医療福祉大学大学院 教授	医療経営・医療制度
	渡辺 順一郎	医療政策部長	行政

# 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 他大学等学外での講義

### 今村先生

杏林大学：客員教授 「医療管理学」	H19~
国公立大学病院看護管理者研修 病院経営（千葉大学にて開催）	H20~
中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育セ ンター 衛生工学衛生管理者コース 「労働生理に関する知識」	H20~
大阪市立大学：客員教授	H25~
東京医療保健大学：客員教授	H25~
大阪大学 非常勤講師	H27~

### 赤羽先生

同志社女子大学 - 医学概論 - 「保健・医療統計」	H23~
中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育セ ンター 衛生工学衛生管理者コース 「労働生理に関する知識」	H20~

### 野田先生

金城学院大学 「公衆衛生学」	H26~
愛知学院大学 「環境健康医学」	H26~

### 岡本先生

大阪市立大学 「公衆衛生学」	H26~
-------------------	------

# 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 他大学等学外での講義

### 大学院生 博士研究員他担当

奈良県病院協会看護専門学校 「生活環境と健康」	①公衆衛生学概論 ②医療制度 ④国際保健 ⑤保健統計、地域保健 ⑥環境保健、疫学・健康指標 ⑦感染症1 ⑧感染症2 ⑨産業・学校・災害保健 ⑩成人保健・生活習慣病 ⑪老人・介護保険 ⑫母子保健 ⑬精神・難病保健 ⑭試験+解説	H21~
----------------------------	--	------

#### 【担当講師】

大学院博士課程：加藤礼識  
博士研究員：佐野友美（関西空港検疫所）、田村光平（西多摩保健所）  
業室研究生：西浦聡子（奈良医大付属病院）

大和高田市立看護専門学校  
「公衆衛生学」

H23~

【担当講師】  
大学院博士課程：加藤礼識

# 健康政策医学 研究内容

研究メンバー	研究費名	タイトル
赤羽 学(代表)	文部科学研究基盤C	超高齢社会における社会政策のための医療・介護サービス需要の高精度推計
面川庄平(代表) 赤羽 学(分担)	文部科学研究基盤C	骨形成細胞シートを併用した骨延長術の有用性に関する実験的研究
城戸 顕(代表) 赤羽 学(分担)	文部科学研究基盤C	筋再生の分子機構を指標とした骨転移者に対する安全で効果的なりハビリテーション
田中康仁(代表) 赤羽 学(分担)	文部科学研究基盤C	重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発
西 真弓(代表) 赤羽 学(分担)	奈良県立医科大学 特別共同研究助成事業	長残光蛍光体ナノを用いた癌細胞の無励起光型バイオイメージング
赤羽 学(代表)	大阪大学橋渡し研究支援推進プログラム	免疫抑制剤を用いない同種細胞シート移植による骨形成促進の研究
赤羽 学(代表)	公益財団法人磁気健康科学研究振興財団 第21回磁気健康科学研究助成	MR装置の静磁場を夜間利用した再生医療に有用な骨形成促進技術の開発

# 健康政策医学 研究内容

## 骨の再生に関する研究

### 共同研究

共同研究	テーマ
ユフ精器	アパタイトコートによる骨形成促進に関する予備検討
京都府立大	レーザーを用いたアパタイト溶着の基礎的技術検討
京都大学	フィブロインスポンジを用いた骨固定材料の開発
労働安全衛生研究所	磁場による骨形成、筋形成の促進

他1社とも共同研究実施中（社名非公表）

### 特許

- ・ 整形外科との共同研究内容で学内発明委員会の承認を得て、特許申請（内容非公表）
- ・ 共同研究テーマでも特許を共同出願（内容非公表）

# 健康政策医学 研究内容

## 競争的資金(野田講師分)

研究メンバー	研究費名	タイトル
野田龍也(代表)	文部科学研究若手B	インターネット依存症：日本におけるスクリーニングテストの開発
今村知明(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業	病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究
今村知明(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研地域医療基盤開発推進研究事業	標準的な院内清掃のあり方の研究
田倉智之(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研特別	特定保険医療材料の保険償還価格算定の基準（原価計算方式）における営業利益率の調整率の定量的算出法に係る研究
深津玲子(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研障害者政策総合	難病のある人の福祉サービス活用による就労支援についての研究
山本保博(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研地域医療基盤開発推進	救急医療体制の推進に関する研究（ドクターヘリ・ドクターカー）

# 健康政策医学 研究内容

## 競争的資金(野田講師分)

研究メンバー	研究費名	タイトル
橋本修二(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研政策科学総合研究事業（統計情報総合研究）	患者調査に基づく受療状況の解析と総患者数の推計に関する研究
野田龍也(代表) 今村知明(分担)	公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団	標準化された機能訓練により誤嚥性肺炎の減少を目指す実践研究
猪口貞樹(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科研(予定)	ドクターヘリの適正な運用のありかたを検討する研究班
宮岡 等(代表) 野田龍也(研究協力)	厚生労働科研障害者政策総合	様々な依存症の実態把握と回復プログラム策定・推進のための研究

# 公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## インターネット依存症：日本におけるスクリーニングテストの開発

背景	インターネット依存症は、医学的な疾患概念の構築に社会的関心が先行している。特に、診断の基礎となるスクリーニングテストは、1995年にYoungが暫定的に提唱したものが今も利用されており、ネット環境の激変や日米の文化の違いに対応できていない。
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現代のネット環境に即し、デバイス別(PC、スマホ等)の診断基準を確立する。</li> <li>● ネットゲームやネットギャンブルよりもSNSやウェブ閲覧が主である日本のネット利用文化に即した診断基準を確立する。</li> </ul>
方法	専門家を交えたデルファイ法で調査票を作成し、ネットの利用頻度により社会集団を層化して分析を行う。優れた診断基準・スクリーニングテストに必要な条件として、「妥当性」「信頼性」「文化横断的な妥当性」の3つがあり、これらを考慮しつつ、ネット利用の曝露量と内容、それらがもたらす有害性について、調査-再調査を行う。

## 医療コミュニケーションに関する研究

### 医療コミュニケーションの中の専門分野 (岡本)

**リスク・コミュニケーション**

食品と医療のリスクに対する消費者(患者)の比較(手島班)  
研究分担者: 今村先生 研究協力者: 岡本  
調査終了し分析中

論文:  
Okamoto S, Tamura K, Ogoshi K, Hamada M, Obana N, & Imamura T. Consumer Attitudes toward Food and Purchasing Behavior after the Fukushima Daiichi Nuclear Disaster. (In preparation)

**患者の医療決断への支援**

研究代表者: 岡本  
研究分担者: 今村先生  
調査終了し分析中。

論文:  
Okamoto S, et al. "Transformative possibilities of communication in medical error cases in Japan," the International Journal of Quality in Health Care, 23 (1), 26-35, 2011.

**患者啓発・プロフェッショナリズムにおけるコミュニケーション**

論文:  
岡本左和子. 「患者—医師コミュニケーション: プロフェッショナリズムを支えるために」日本内科学会雑誌 第99巻2号, p.161-166, 2010

**患者啓発・プロフェッショナリズムにおけるコミュニケーション**

論文:  
Okamoto S, et al. "Values and risks of second opinion in Japan's universal health care system," Health Expectation, online published on February 2013.

**患者・家族と医療従事者の関係を築くコミュニケーション**

論文:  
Tokuda Y, Okamoto S, et al. "The influence of medical jargon mixed with foreign terminology in the Japanese clinical environment," JInternal Medicine, 47, 1329-1334, 2008.

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 医療コミュニケーションに関する研究

リスク・コミュニケーション	患者・家族と医療従事者との関係を築くコミュニケーション	患者啓発・プロフェッショナリズムにおけるコミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>被害発生前のリスク認知と安全確保</li> <li>発生後の事態収束や解決の促進</li> <li>医療安全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の治療決断や前向きな姿勢をどのようにして導くか</li> <li>患者満足の上向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者・家族の受療において必要な知識や積極的に取り組む考え方の支援</li> <li>医療従事者間のチームワークと</li> </ul>
<p><b>研究内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福島第一原子力発電所事故後の消費者の当該地の食品に対する抵抗感と購買行動</li> <li>患者の医療決断の支援のあり方</li> <li>医療において有害事例が発生した後の効果的なコミュニケーションと関係回復など</li> </ul>	<p><b>研究内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者の医療決断までの考え方や行動を明確にし、医療側の支援の仕方を探る</li> <li>医療における日々の不都合や不満がどのように蓄積して、患者の行動に結びつくのか</li> <li>その支援の仕方</li> <li>医療対話推進者教育</li> </ul>	<p><b>研究内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導医教育におけるコミュニケーション・プログラム</li> </ul>
<p><b>研究費(平成26~28年度)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基盤研究(C) 患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究</li> </ul> <p>研究代表者: 岡本左和子 研究分担者: 今村知明先生</p>		

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 関連委員会・審議会・会議: 国・県・市町村関係

### 今村 知明

**法人特命企画関係**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 奈良県大	医大周辺まちづくりプロジェクト調整会議	委員	年4回
2 奈良県大	医大の将来像策定会議	オブザーバー	月1回
3 奈良県大	医大の将来像策定WG (旧 教育・研究部門等戦略対策検討委員会)	委員	月1回
4 奈良県大	教育 サブWG	委員	月1回
5 奈良県大	研究 サブWG (旧 臨床教育研究推進代替WG)	委員	月1回
6 奈良県大	研究 サブWG	委員	月1回
7 奈良県大	まちづくりサブWG	サブリーダー	月1回
8 奈良県大	中期計画推進委員会 施設整備部会	委員	年4回
9 奈良県大	中期計画推進委員会	委員	年4~10回
10 奈良県大	病院運営協議会【病】		年12回
11 奈良県大	病院経営・運営委員会【病】		年20回
12 奈良県大	看護職員確保対策会議 対策本部員		年3回

**奈良県大内の委員**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 奈良県大	医学科教授会議		年14回
2 奈良県大	医学研究科博士課程委員会		年6回
3 奈良県大	医学研究科修士課程委員会		年6回
4 奈良県大	臨床医学教育協議会		年11回
5 奈良県大	臨床医学教育協議会		年11回
6 奈良県大	中期計画推進委員会 医学科医学科入学試験部会	委員	年4回~10回
7 奈良県大	利益相反管理委員会	委員	年2回
8 奈良県大	利益相反に係る相談室	委員	不定期
9 奈良県大	産学官連携センター運営委員会	委員	年2回
10 奈良県大	産学官研究交流促進グループ		不定期
11 奈良県大	女性研究者支援センター運営委員会	委員	年3回
12 奈良県大	医療の質評価委員会【病】	委員	年4回
13 奈良県大	医療情報システム運営委員会【病】	委員	年6回
14 奈良県大	MR増強検討ワーキング会議【病】	委員	年3回
15 奈良県大	リハビリテーション検討委員会【病】	委員	年3回
16 奈良県大	ダビング購入検討会【病】	委員	年3回

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 関連委員会・審議会・会議: 国・県・市町村関係

### 今村 知明

**奈良県関係の委員**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 奈良県福祉部	奈良県食品安全・安心懇話会	委員	年2回
2 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 行委員会 有識者会議	委員	年4回
3 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会	委員	年4回
4 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
5 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
6 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
7 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
8 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
9 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
10 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
11 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
12 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
13 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
14 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
15 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回
16 奈良県健康長寿共済会	奈良県健康長寿共済会 共済事業実行委員会 検討委員会	委員	年2回

**国の審議会委員**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 厚生労働省	食中毒対策推進委員会	委員	年3回
2 厚生労働省	食中毒対策推進委員会	委員	年4回
3 農林水産省	食品への意図的な毒物等の混入の未然防止に関する検討会	委員	年4回
4 マルハニチロ株式会社	農業混入事件に関する第三者検証委員会	委員長	年15回
5 厚生労働省	平成26年度診療報酬改定結果検証調査(平成26年度調査)「夜間の看護要員配置の確保や月平均稼働時間72時間要件を満たさない場合の緩和措置による影響及びチーム医療の推進を含む医療従事者の負担軽減措置の実施状況調査」	委員	年4回
6 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
7 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
8 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
9 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
10 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
11 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
12 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
13 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
14 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
15 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
16 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
17 厚生労働省	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 関連委員会・審議会・会議: 国・県・市町村関係

### 今村 知明

**公的病院関係の委員**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 社)全国自治体病院協議会	診療報酬対策委員会	アドバイザー	年1回
2 社)全国自治体病院協議会	臨床指標評価検討委員会	委員	年3回
3 全国土木建築国民健康保険協会	厚生中央病院経営改善検討会	講師	年4回
4 済生会中和病院	済生会中和病院地域医療支援病院評価委員会	委員	年3回
5 奈良県国保中央病院組合	奈良県国保中央病院改革プラン評価委員会	委員	年3回
6 富山市	富山市民病院経営改善委員会	委員	年1回
7 香林大学医学部	病院管理学 学術運営顧問	客員教授	年6回
8 東京医療保健大学	東京医療保健大学スクリーニング委員会	委員	年3回

**市町村関係の委員**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 堺市	堺市建築審査会	委員	年2回

**学会・協会等の委員**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会 地方試験委員会	委員	年2回
2 日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会 評議員	評議員	年2回
3 日本衛生学会	日本衛生学会 評議員	評議員	年1回

**その他**

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 奈良県大	柔道部部長	部長	4~12月 毎週火曜

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 関連委員会・審議会・会議: 学内関係、その他講座メンバー関係

### 赤羽 学

省庁	職務内容	役職
1 社団法人日本整形外科学会	Journal of Orthopaedic Science (JOS) editorial board member	Editorial board member
2 World journal of stem cells (WJSC)	World journal of stem cells (WJSC) editorial board member	Editorial board member
3 Annals of translational research and epidemiology	Annals of translational research and epidemiology editorial board member	Editorial board member
4 厚生労働省	油症全国実態調査委員会	委員
5 マルハニチロ株式会社	農業混入事件に関する第三者検証委員会	委員

**野田 龍也**

省庁	職務内容	役職
1 厚生労働省 三菱研	平成26年度「介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査研究事業」	オブザーバー
2 全国健康保険協会本部	全国健康保険協会健康・医療情報分析アドバイザー	委員

**岡本 左和子**

省庁	職務内容	役職
1 奈良県大	奈良県立医科大学附属病院ホスピタリティ向上委員会	委員

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 以上

### ご清聴ありがとうございました

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

## 以上

### ご清聴ありがとうございました

奈良県立医科大学 健康政策医学講座